

とりたまごフェア

5月5日 於 丹波自然公園

(株)ハタナカ 畠中 国彰

去る5月5日、京都の食の安心と安全をアピールする為に京都府が主催された『とりたまごフェア』に参加致しました。高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、風評被害を含め多大な打撃を受け、苦境に喘いでいる京都北部の養鶏農場を元気付けるお手伝いを…と言う事で、京都府から京都青年団体会議会長にイベントへの参加要請が有りました。要請からイベント当日まで2週間あまりしかなく、また、イベント当日が連休最終日ということもあり既に予定が入っている方も多く、参加については賛否もありました。しかし、今、機械金属業界は「京都」というブランド力で非常に活気を帯び、一年前のあの不況を忘れかけています。しかし、京都の養鶏業者は同じ「京都」というブランドであるがために突然降りかかった不況に喘いでおられます。同じ「京都」のその業界が不況に見舞われ元気を無くしています。『元気のあるものが落ち込んでいるものに元気を与える。』これが機青連らしさであり、先輩方から私達に引き継いでいただいた機青連スピリッツだと思います。と言う飛永代表幹事の熱い思いに賛同し、20人近くの方が参加表明をして下さいました。機青連から何を出店するかも色々意見は有りましたが、昨年のCAPフェスタで大活躍した回転焼きなら短い準備期間ながらも何とかできるのではないか？と言う事で回転焼きに決定し、当日に向けて動き出しました。当日参加できない方は買出しなどの準備をお手伝いいただき、5月1日に株式会社ハタナカにて行なわれた試し焼きにも参加していただき、当日組に温かいエールをいただきました。イベント前日に雨が降り、開催が危ぶまれましたが、当日は雨も止み、曇天で少し肌寒い気温の中スタートしました。8時の開門と同時にブース設営を行なうため、7時30分に丹波町にあるドライブイン山形屋に集合。10時のイベントスタートにあわせ作り置きをするためにブース設営終了と同時にネタの調合を開始し、焼き始めました。また当日は中央会から五十嵐会長と三木さんが助っ人として参加していただき、焼きに呼び込みに大活躍していただきました。前回CAPフェスタ時の売れ具合から、売れ始めは昼前くらいからだろうという予想を見事に覆され、イベントスタート前からパラパラとお客さんが集まり始め、十分な作り置きも出来ないまま、休む間もなくフル回転で焼きまくり… 9Kg準備したあんこも1時過ぎには底をついてしまい、近所のスーパーへ買い足しに走る程の売れ行きで、CAPフェスタの時よりも短い営業時間であったにもかかわらず、前回同様、老若男女を問わずお買い求めいただき、合計529個を売り、カスタード、買い足したあんこ共に見事に使いきりました。行きにプレッシャーを感じた約1名が、鉄板の温度を上げ、表面だけしか焼けてない回転焼きを売り、不良・返品を受け、交換に走る一幕も有りましたが…また、地元の方からは、『素人さんが焼いた割にはおいしい』と言うお褒め？の言葉もいただき、中央会の五十嵐会長と三木さんからは、『機青連の元気なブースをスタッフとして手伝わせていただき、ありがとうございました。』と言う感謝の言葉も頂戴しております。連休を挟んだ短期間で準備をし、また、当日は早朝から夕方までお手伝いいただき、本当にありがとうございました。お手伝いいただいた皆さんが感じた心地よい疲労感が、京都北部の養鶏農家の元気になったと信じて疑いません。今回のイベントへの参加は機青連の理念である、『育とう、育てよう、育ち会おう』の理念に通じるものが有ったと思いますし、同じ京都の一員として大成功のうちに終えることができたと思います。最後になりますが、当日お手伝いいただいた、中央会の五十嵐会長、三木さんには心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

